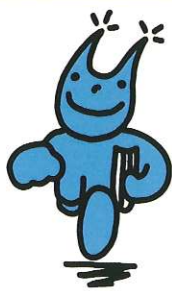


●文部科学省 平成19年度「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」

学生の自主的活動の 評価と教育効果の向上



人とともに 地域とともに
国立大学法人
島根大学



『ビビット』(島根大学マスコットキャラクター)

このマスコットキャラクターは、旧島根大学の開学50周年(平成11年10月)を記念して募集し、全国各地からの約6000点を超える応募の中から決定した。「にこやかで親しみやすい表情と、常に時代をキャッチするアンテナを頭に付け、知恵の探究を意味する本を抱え、元気よく前進している様子」をあらわしたもの。

イラストの作者紹介

文中のイラストは島根大学マスコットキャラクター「ビビット」をモチーフに、学生サポートスタッフが作成したものです。

原画・デザイン：生物資源科学部3年 石原 綾

電子画像作成：総合理工学部4年 池田 道弘

目次

◎「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」とは……………	1
◎「学生の自主的活動の評価と教育効果の向上」の概要……………	1 2
◎「ビビットカード(ICカード)」の導入……………	3
◎ポイントの対象となる活動と付与ポイント一覧……………	4
◎電子カルテシステムによる総合的な学生支援……………	5
◎2007-2008年度の主な活動実績	
○地域貢献活動……………	6
○学内活動……………	7
○サポートスタッフ……………	8
○SD研修等……………	9
○ガイダンス等のWeb配信……………	10
○情報提供……………	10
○活動データ……………	11
◎学生の声……………	12

人と社会、それを生み出した自然 — 現実の世界に目を向けよう

島根大学理事(教育・学生担当副学長) 坂本 一光

「人間はいつ自分になるか」、ある哲学者が問いかけている。自分になるとは、「社会の中の自分の位置に気づき、社会に向かって働きかける方向を決める」ことだ、と言う。人間は人と社会との関わりの中で「自分」になる、そのとき「人が生まれる」、と。

学ぶとは、自然・社会・歴史・文化など人間が生きてきた世界はどうなっているかを問い、知り、理解することである。そして、人間はどこから来て、どこにいて、どこへ行こうとしているかを問うことは、人間が生きてきた世界に自分はどうか生きるかと問うことに重なるだろう。

現実の世界は、それを知り理解すれば、ものの見方・考え方を根底から変えるような力を持っている。だから、正課の教育課程においても、正課外の自主的な活動においても、意識して、人と社会、自然に目を向け、現実の世界に学んでほしい。この取組をとおして、一人ひとり異なる、個性的な「自分」たちが大勢生まれることを期待している。



「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」(学生支援GP)とは

平成19年度から文部科学省が「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」とし国公立大学、短期大学及び高等専門学校を対象に募集されたものです。略称として「学生支援GP」(Good Practice)とされています。

このプログラムは、学生の人間力を高め人間性豊かな社会人を育成するため、入学から卒業までを通じた組織的かつ総合的な学生支援のプログラムのうち、学生の視点に立った独自の工夫や努力により特段の効果が期待される取組を含む優れたプログラムを選定し、広く社会に情報提供するとともに、財政支援を行うことで、各大学等における学生支援機能の充実を図ることを目的とされています。平成19年度は、応募総数272件の内、70件が選定されました。

島根大学からは「**学生の自主的活動の評価と教育効果の向上**」プログラムを申請し、採択されました。

島根大学のプログラム「学生の自主的活動の評価と教育効果の向上」の概要

大学における学生生活においては、正課以外のサークル活動、ボランティア活動、各種ガイダンス・セミナー等（以下「課外活動等」という。）の諸活動を行なうことが自立やコミュニケーション能力等の養成に役立ち、人間力の形成を涵養します。しかしながら、正課以外の課外活動等の諸活動に対しては評価が不十分な現状にあります。

本取組では、正課以外の諸活動への参加者に対してインセンティブ・ポイントの付与、ポイント交換の仕組みを構築し、大学が積極的に課外活動等を評価するとともに参加を誘導することにより、学習意欲の向上を図ることを目的とします。

学生の諸活動の履歴は、履修状況、就職活動、面談記録等とともに一元的に参照できる既設の「学生電子カルテシステム」に登録します。それを参照し、指導教員等がきめ細かい指導を行うとともに正課と正課外教育の相乗効果を検証することによって教育改善に資するものです。

新たな取組の概要

正課外活動の推進

ボランティア活動・地域貢献活動・サークル活動
学内委員活動・セミナー・ガイダンス等

人間力の涵養

- 自立心の養成
- 無関心・無気力学生をなくす
- コミュニケーション能力を育てる

学生支援体制の
充実・強化



正課外活動を評価
する仕組みの構築

正課教育と正課外教育の相乗効果の検証
(学内評価と社会的評価)

選定理由

本取組は、大学の正課以外のサークル活動・ボランティア活動・各種セミナーなどの活動への積極的な参加を学生に促し、自立やコミュニケーション能力の涵養を図ろうという施策です。

諸活動に参加した学生には、今の時代にマッチしたポイントカードを持たせ、活動に応じてポイントを付与し、ポイントは教科書などを購入する時に金額換算するという、ユニークな取組です。

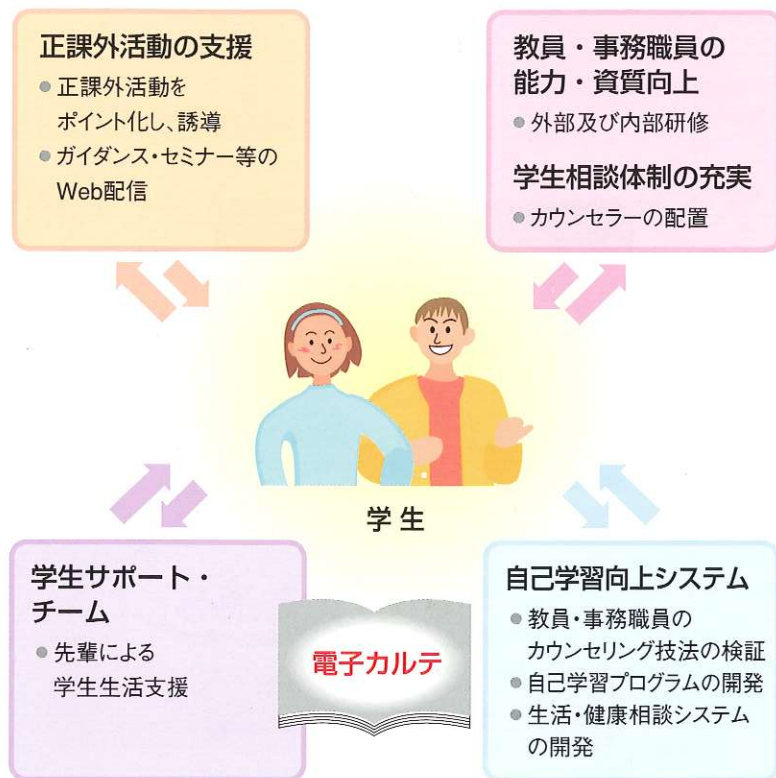
また、学生時代に社会貢献活動やボランティア活動に参加することは、大変なことであり、そのきっかけにもなるであろうと考えます。この取組は社会的にも意義があり、またポイントカード活用というアイデアもあって、他の大学等の参考となる優れた取組であると考えます。

今後、対象となる活動の範囲、活動内容によってポイント数に格差を設けることの是非などを検討すればさらに良いと考えます。

(独立行政法人 日本学生支援機構)

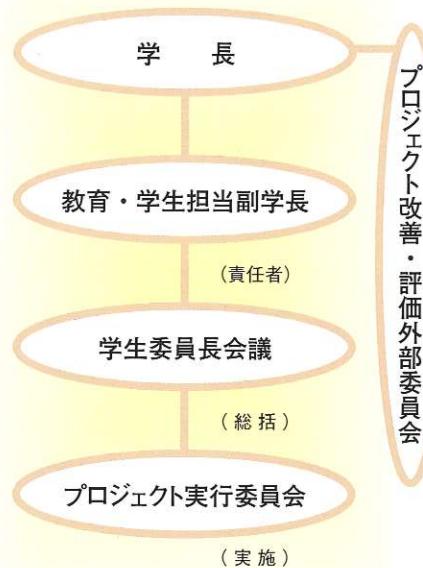
全体計画

学生支援のための総合システム



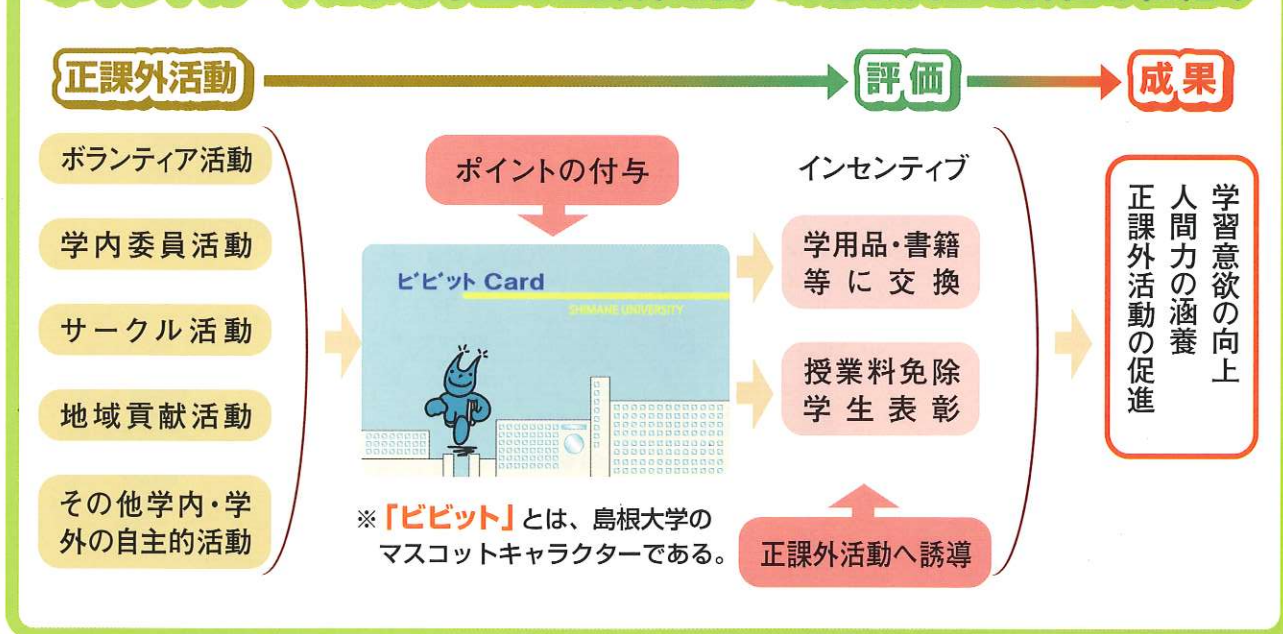
電子カルテを活用した組織的・総合的支援

実施体制



2

ポイントカードによる学生の正課外活動への意欲向上と評価の仕組み



学生の正課外活動を推進し、ボランティア活動による地域貢献、人間力の向上を図るため、すべての活動に対して**インセンティブ・ポイント**を付与します。

学生が獲得した「ポイント」は、点数に応じて、**授業料免除**（課外活動優秀者として4年生の後期分授業料を各学部2名免除する。）、**学用品、書籍等に交換**できるという仕組みも導入しており、学生への経済的な支援を行うとともに正課外活動へ積極的に参加するよう働きかけています。

ビビットカード (ICカード) の導入

入学時にICチップ入りポイントカード (ビビットカード) をすべての学生に配布することにより、まず正課外活動への意識付けを行います。

このカードで学生生活における正課外活動に対し「ポイント」を学生個人に付与すると共に、カードリーダーを使用し、活動データを収集・分析します。

カードの再利用

ビビットカードは、卒業時に回収します。このカードは、表面にフィルムを貼り、印刷しています。このフィルムを剥離機で剥がして再利用することにより、環境に配慮するとともに、経費の節約を図ります。



▲ ビビットカード



▲ カードリーダーで
非接触式
ICカードを読み込む

ポイントを貯める

正課以外の活動

証明書等が
必要な活動
(次ページ参照)

証明書等が
不要な活動
(次ページ参照)

事前に証明書用紙を
次のいずれかの方法
で受取る

- 学生支援課
- 医学部学務課
- ホームページ

(<http://shiengp.shimane-u.ac.jp/03vivitcard/card-howto.html>)

次のいずれかの方法
でポイントが登録さ
れる

- 当日ビビットカード持参
(忘れた場合は、学生証
を提示)
- 自動的に登録

活動終了後、主催者
等から証明書に記入
押印してもらう

学生支援課または、
医学部学務課へ証明
書提出

学務情報システムに登録

獲得・残ポイント等については学務情報システムから確認できます。

(学務情報システム→学籍管理→正課外活動履歴参照)

ポイントを使う

ポイントの確認
(学務情報システムで確認可)

学生支援課でビビットチケット (交換券) 受領
(学生証が必要)

生協売店で「図書」、「学用品」と交換

1 ポイント POINT = 1 円 YEN

1 ポイントを1円分に換算



活動履歴と獲得ポイントの確認

学生は、学務情報システム(WEB)から「活動日」、「活動内容」、「取得ポイント数」、「使用ポイント数」を確認することができます。

[学務情報]		[就職関連状況]		[学生特記事項]		[正課外活動状況]	
写真	学生番号 学生氏名(カナ) 所属 現況区分			学生氏名 学生氏名(英字) 年次 学生身分			

●正課外活動の実績

年月日	正課外活動/特記事項	ポイント	使用ポイント	累計ポイント	特記事項	対応
2008/10/19	地域貢献活動7H	175		310	橋本子供みこし祭り	○
2008/10/08	セミナー・ガイダンス等参加1H	30		105	就職ガイダンス2	○
2008/10/08	セミナー・ガイダンス等参加1H	30		135	就職ガイダンス1	○
2008/06/18	地域貢献活動1H	25		70	自転車盗難防止ボランティア	○
2008/04/03	サポータースタッフ	0		50	オリエンテーション準備のサポート	○
2008/04/01	サークル活動	50		50	公務法曹研究会	○

▲学務情報システム「正課外活動状況」で履歴が確認できる

ポイントの対象となる活動と付与ポイント一覧

大分類	小分類	正課外活動コード	正課外活動名称	説 明	ポイント獲得に必要なもの	ポイント	単位
ボランティア活動 (学外)	災 害 ・ 救 助	1110	災害支援	国内外の被災地における救援活動	証 明 書	70	1/時間
		1120	人命救助	火災・事故等での人命救助	新聞記事等	1000	1/回
	医 療 ・ 福 祉	1210	障害者等支援	障害者のための各種支援活動 (例)ノートテイク等		40	1/時間
		1220	福祉施設等支援	介護施設及び障害者施設等での各種支援活動 (例)老人ホーム等への慰問	証 明 書	15	1/時間
		1230	医療施設等支援	医療施設等での支援活動 (例)病院ボランティア		15	1/時間
		1240	献 血	献血による医療への貢献	献血手帳	50	1/回
	教 育 ・ 文 化	1310	教育支援活動	学校等教育施設での支援活動(例)運動会の支援 (教育学部基礎体験は別途ポイント加算)		10	1/時間
		1320	学術支援活動	学会、講演会等での支援活動	証 明 書	10	1/時間
		1330	芸術・文化支援活動	芸術及び文化に関するイベント等への支援活動		10	1/時間
		1340	スポーツ支援活動	スポーツの大会への支援活動		10	1/時間
	地 域 貢 献	1410	地域貢献活動	地域の行事等への支援活動 (例)緑化活動	証 明 書	25	1/時間
		1420	企画・運営支援	自治体等における企画・運営の支援活動		25	1/時間
	国 際 貢 献	1510	留学生支援	留学生への支援活動	証 明 書	15	1/時間
		1520	海外ボランティア活動	外国での各種ボランティア活動		30	1/時間
ボランティア活動 (学内)	学内支援活動	2110	学内ボランティア活動	学内における環境整備等への支援活動 (例)構内一斉清掃	当日カード持参	20	1/時間
		2120	国際交流活動	留学生等に対する支援 (チューターとしての生活指導は除く)		10	1/時間
教育・研究関係	教育・研究活動	3110	資格取得(国家資格)	各種国家資格の取得(卒業要件となるものを除く)(例)行政書士	合格通知書等	200	1/資格
		3111	資格取得(その他)	国家資格以外の各種資格の取得 (例)秘書検定		100	1/資格
		3120	研究発表	学会等での研究発表	パンフレット等	100	1/回
		3130	教育協力	学内での学生参加のセミナー等の司会者等	当日カード持参	30	1/時間
		3140	教育・研究協力	アンケート等への協力 (全学または学部を対象とするものに限り)	名簿により登録	10	1/回
学 内 活 動	学 内 活 動	4110	委員長(学内行事)	学生生活推進会、学友会、大学祭実行委員会の代表者	役員名簿により登録	500	1/年
		4120	役 員(学内行事)	学生生活推進会、学友会、大学祭実行委員会の役員		200	1/年
		4130	学生委員	大学の企画・運営に関する各種委員会委員等 (例)EMS委員	名簿により登録	200	1/年
		4140	サークル代表	各サークルの代表者である部長等 (複数サークルのカウントはしない)		100	1/年
		4150	サークル活動	各サークルの部員 (複数サークルのカウントはしない)		50	1/年
		4160	セミナー・ガイダンス等参加	セミナー、ガイダンス等に参加 (単位認定されるものを除く)	出欠表、当日カード持参	30	1/時間
各 種 活 動 の 優 秀 者	各 種 活 動 の 優 秀 者	5110	サークル活動成績優秀者(全国)	全国大会での入賞者	新聞記事、表彰状等	300	1/回
		5120	課外活動成績優秀者(西日本)	西日本地区を対象とした大会での入賞者	新聞記事、表彰状等	200	1/回
		5130	課外活動成績優秀者(中国地区)	中国地区を対象とした大会での入賞者	大会成績の証明等	100	1/回
		5140	その他優秀	上記以外で特に優秀な活動をした者	新聞記事等	別途加算	1/回
学内表彰者	学 部 長 表 彰 学 部 長 表 彰	6110	学術・研究面での学内表彰者	学内において、表彰規定により表彰された者 又は学部等で研究面の活動等を表彰された者	学長表彰該当者及び 学部からの表彰者報告	200	1/回
教育学部 1000時間 体験学習	1000時間 体験学習	7110	基礎体験実習分(必修を除く)	教育学部1000時間体験に関するもの (教育学部基礎体験台帳により分類)	教育学部から時間 データの一括報告	3	1/時間
入学時ポイント	入 学	9100	入 学	新入生全員にポイントを進呈		100	1/回

※原則として謝礼が支払われるものは除きます。

ポイント対象 シール

ボランティアの募集やセミナー・ガイダンスのポスターやホームページには、ポイント対象となる事業であることを明示するため、シールや電子画像を提供しています。



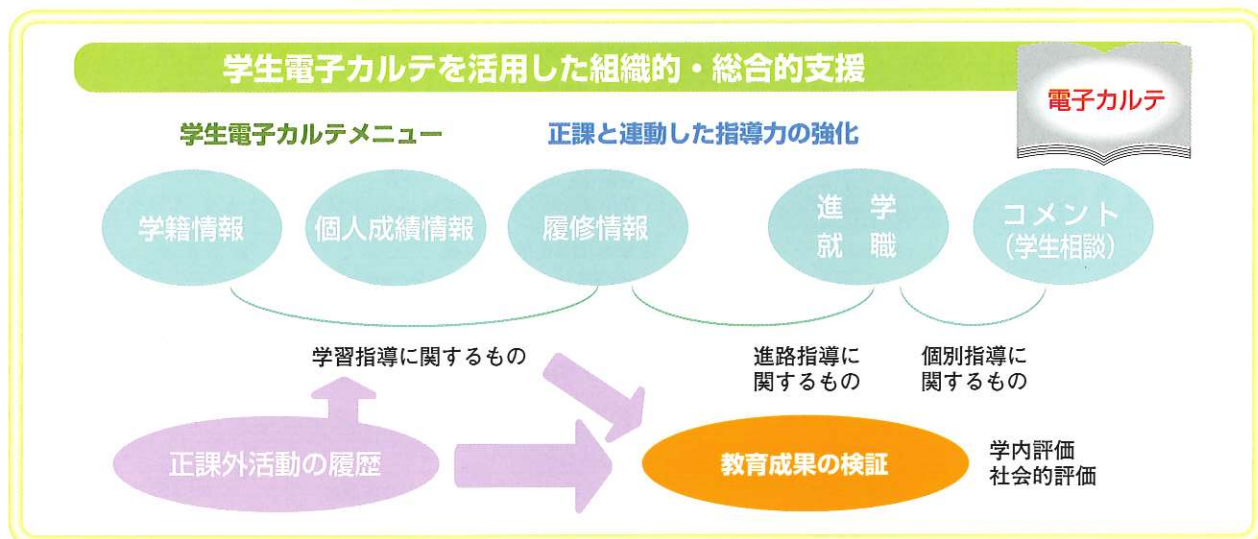
(平成20年11月19日改正)

電子カルテシステムによる総合的な学生支援

本学では、平成18年度より既設の「学務情報システム」に学生個人ごとの成績や履修登録の状況、就職活動等を一元的に参照でき、かつ個別指導記録を登録できるシステムとして「学生電子カルテシステム」を導入して、きめ細やかな指導をするために活用してきました。

本システムをさらにカスタマイズし、正課外活動の履歴及びインセンティブ・ポイントの獲得状況を登録し、指導教員、事務職員等が参照できるようにしました。

さらに、本システムからデータを出力し、分析することにより正課と正課外の教育効果が検証され、改善への取り組みや指導方法の確立を目指しています。



5

No.	時間割コード	科目名	教員名	認定年度	評価
1	T151002	初級化学I	北澤 次郎	2001	優
2	T160101	化学実験I	山田 三郎	2001	優
3	A113001	英語A	林田 花子	2001	優
4	A113002	英語B	田中 孝子	2001	優
5	A113003	英語C	田中 孝子	2001	優
6	A113004	英語D	田中 孝子	2001	優
7	A120011	英語(英会話海外研修)	田中 孝子	2001	優
8	A120012	フランス語A	田中 孝子	2001	優
9	A120013	フランス語B	田中 孝子	2001	優
10	A120014	フランス語C	田中 孝子	2001	優
11	A120015	フランス語D	田中 孝子	2001	優
12	B100001	体育(スポーツ科学)	田中 孝子	2001	優
13	B100002	体育(健康科学)	田中 孝子	2001	優
14	B100003	体育(運動科学)	田中 孝子	2001	優
15	B100004	現代生活の基礎	田中 孝子	2001	優

▲「学生カルテ・成績参照」サンプル画面

日	面談年月	タイトル	面談内容	面談者
1	2001年5月10日	入学の準備について	入学の準備(教科書、筆記用具等)を確認し、入学の準備が整っていることを確認した。	田中 孝子
2	2001年11月11日	学業の進捗について	学業の進捗を確認し、学業の進捗が順調であることを確認した。	田中 孝子
3	2002年4月20日	卒業の準備について	卒業の準備を確認し、卒業の準備が整っていることを確認した。	田中 孝子

▲「学生カルテ・特記事項」サンプル画面

正課と正課外の教育効果の検証

本取り組みでは、正課をGPA (Grade Point Average) の数値と正課外のインセンティブ・ポイントを学生個人毎に比較検証するほか入学・卒業時アンケート及び卒業後の就職先企業等へのアンケートを通じて、正課と正課外の教育効果を検証します。

※GPA

世界標準的な大学での学生の成績評価の方法である。欧米の大学で一般的に使われている。

期待される効果

- 学生の自主的な正課外活動をポイントとして評価(可視化)する仕組みを構築することにより、学生の積極的な正課外活動の参加を促し、社会が求める「コミュニケーション能力」・「チャレンジ精神」・「主体性」のある人材を養成します。
- 正課外活動の履歴やインセンティブ・ポイントの獲得状況を登録することで、学生及び教職員がデータを参照でき、かつ分析することにより教育改善への取り組みや学生指導方法の確立を目指すことが可能となります。また正課外活動のデータを正課と連動させることにより、教育効果を検証出来ます。
- 正課外活動を評価し登録するためのICカードを学生に配布することや、学生の自己学習のために学内LANから配信すること、ポイント評価したものを学生に還元することで、本プログラムへの学生の参加意欲を向上させることができます。
- 学生生活に関わる不安や悩みを解消するため、学生による「学生サポートチーム」を組織して、学生の意識の向上とともに学生支援の充実・強化が図れます。

2007－2008年度の主な活動実績

地域貢献活動



◆「地域安全協力員」制度の創設

島根県警、松江警察署と連携協力し、安全まちづくりのため、地域の防犯ボランティアとして島根大学の学生を「地域安全協力員」として委嘱する制度が平成20年10月に創設されました。

平成20年度は、72名の学生が松江警察署長から委嘱され、地域の防犯ボランティア団体等と協力して次の活動を行っています。

- 振り込め詐欺被害防止のための活動
- 防犯パトロール
- こども見守り活動
- 自転車盗難防止のための鍵かけキャンペーン



▲ 地域安全協力員委嘱式の様子



▲ 振り込め詐欺防止のためチラシを配布する学生たち
(ジャスコ菅田店前にて)



松江警察署島津生活安全課長より代表の生物資源科学研究科 森本崇永さんに委嘱状が授与されました



自転車盗難防止のための鍵かけキャンペーンで
施錠してない自転車にラベルを取付ける学生
(島根大学松江キャンパスにて)

◆ 地域交流活動

● 地元企業等への就職支援

島根の企業を紹介し、地元の産業を体験して、就職活動に生かすことを目的に独立行政法人雇用能力開発機構が主催した「ユアステージミーティング3」で各企業等の出展企画・運営に学生がボランティアとして参加しました。



企業の展示ブースで
来場者に対応する
学生ボランティア

◆こどもとの交流活動

島根大学の近隣地区で恒例となっている「こどもみこしまつり」に参加し、こどもたちと一緒にみこしを担ぐなど、交流を深めました。



こどもたちと一緒に
みこしを担ぐ学生たち



学内活動



◆環境整備活動

本学は、平成18年3月に松江キャンパス川津地区においてISO14001の認証を取得しました。その後、認証範囲を順次拡大し、平成20年3月、附属病院を有する総合大学としては、全国初の全学での認証取得を果たしました。

学生のサークル「SOEC」も大学の環境マネジメントに貢献しており、全学構成員の環境意識も高くなっています。

年に数回ゴミ集めや草取りに教職員、学生が参加しています。



▲ キャンパス一斉清掃で草取りをする学生たち



▲ ゴミ拾い・清掃に集まった教職員・学生

◆オープンキャンパス

▼ 参加した高校生にかき氷を
プレゼントする本田学長



▲ 会場等の案内をする学生たち

▲ 高校生の質問に
答える学生



サポートスタッフ



学生の入学時から卒業時までの学生生活を支援するため、学生サポートスタッフ制度を創設しています。
現在、応募した学生70名が登録しています。

活動内容

- 学生の就職活動のサポート・相談
- 企業情報・求人情報提供のサポート
- 入学手続き時の新入生の案内
- 新入生に対する学生生活上の相談・アドバイス
- 卒業式の受付・誘導
- 入学式の案内・新入生オリエンテーションのサポート
- 履修登録の相談
- 就職ガイダンス等のビデオ撮影



▲ 卒業式の受付をする学生サポートスタッフ



入学式の受付をする学生サポートスタッフ



▲ Webによる履修登録の指導をする学生サポートスタッフ ▼



文部科学省
新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム

学生サポート スタッフ募集

- サポート内容について
*** 学生生活等に関する相談 ***
学生生活・修学・課外活動、他
- 謝礼をお支払いします
- 登録制です

アルバイト情報について
URL <http://shimadai.jp/>

お問い合わせ先
学生センター 医学部学務課
学生支援課 学生支援課
0852-32-6054 0853-20-2093

Shimane University



学内研修

- 第1回SD研修会
「事務職員と教員の協働による学生支援の充実をめざして」
- 第2回SD研修会
「きめ細やかな学生支援体制の構築に向けて」
- ノートテイク研修会

学外研修

- 学生相談インターカースミナー
- 全国学生相談研究会議
- 学生相談セミナー
- 障害学生修学支援セミナー
- ノートテイク養成講座
- 発達障害のある学生支援研修会 等

第1回 SDフォーラム

「事務職員と教員の協働による学生支援の充実をめざして」

- 開催日：平成20年3月26日（水）
- 場 所：島根大学教養講義室1号館202室

第1部「大学職員の役割と学生支援のあり方について」

講師：広島大学高等教育研究開発センター長 山本 眞一氏

第2部「島根大学における学生支援GPの取り組みについて」

講師：島根大学理事（副学長）坂本 一光氏



広島大学高等教育
研究開発センター長
山本眞一氏による講演



第2回 SDフォーラム

「きめ細やかな学生支援体制の構築に向けて」

—悩みを持つ学生への支援について—

- 開催日：平成20年9月22日（月）
- 場 所：島根大学教養講義室1号館202室

「教員の学生メンタルヘルスに対する意識調査」

講師：保健管理センター 河野 美江氏

「指導教員と連携した学生相談の取組」

講師：保健管理センター 早瀬 眞知子氏

「自ら助けを求めず潜在している学生に対する学内協働による取組」

講師：神奈川工科大学 最上 澄江氏

「学生相談を切り口としたメンタルヘルス・プロモーション」

講師：神奈川工科大学 学生相談室 市来 真彦氏



▲ フォーラムの受講風景

ガイダンス等のWeb配信

キャリア・就職支援の一環として、正課以外の各種ガイダンス及びセミナー等に参加できなかった学生や復習のための自己学習用としてビデオ撮影し、学内LANによりWeb配信しています。

このコンテンツは、講師のビデオとスライドが連動しており、目次ごとの再生が可能であり、時間を気にせず視聴できます。



▲ 就職ガイダンス Web配信画面



▲ 毎回多くの学生が参加している就職ガイダンスの様子。この映像を撮影し、学内でWeb配信を行っている。

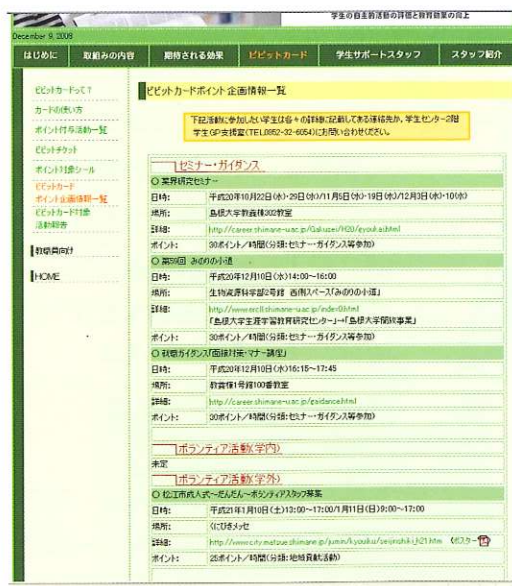


▲ 就職ガイダンスの様相を撮影する学生サポートスタッフの学生

10

情報提供

本取組について、ホームページを開設し、プログラムの新たな取組み等について、広く社会に情報を提供しています。



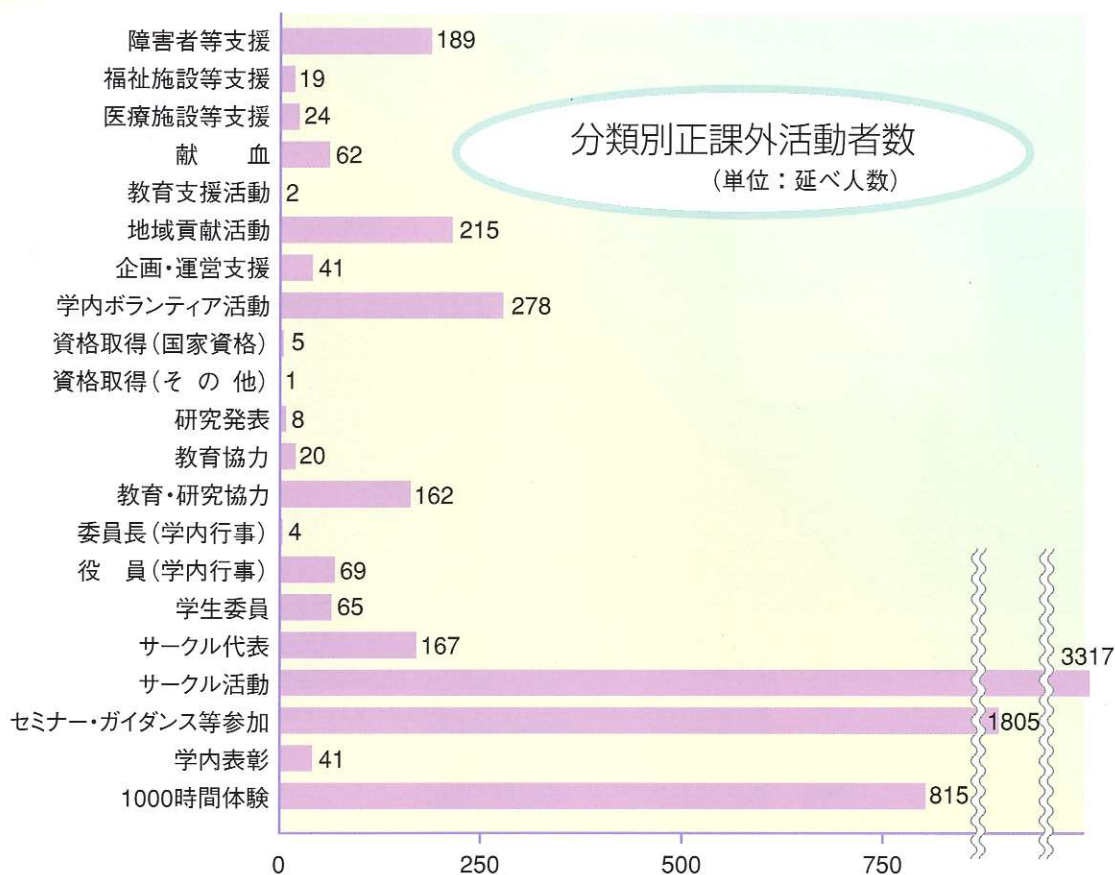
▲ ボランティアなどポイント対象企画の情報提供画面



URL: <http://shiengp.shimane-u.ac.jp/>

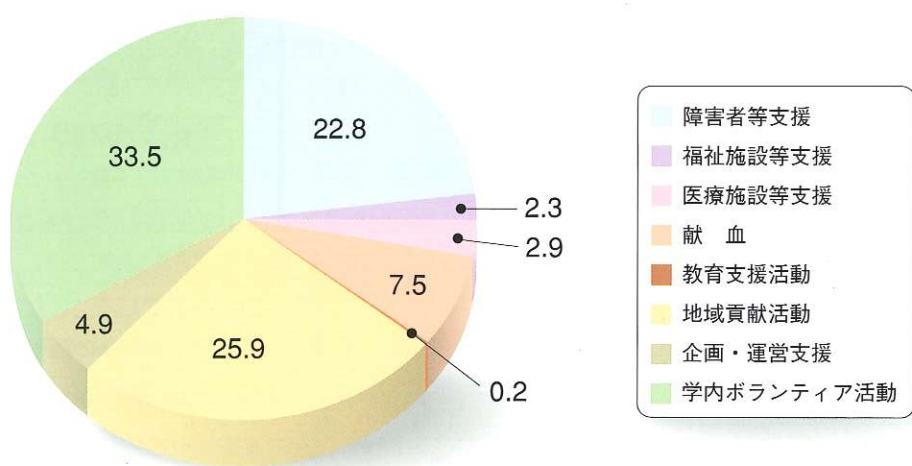
活動データ

平成20年4月から12月までの間に正課外活動に携わった学生を分類別に集計すると、下図のとおりであり、さまざまな形で正課外活動を行っており、地域貢献活動に215人が参加するなどボランティア等による地域への貢献が果たされつつあります。(分類は、付与ポイント一覧(4頁参照)による。)



ボランティア活動を活動の種類ごとに比較すると、「学内ボランティア」、「地域貢献活動」、「障害者等支援」の順に活動者が多く、これらを合算すると全体の8割強を占めています。

ボランティア活動分類別活動比率
(単位：%)



学生の声

●法文学部 3年（男子）

ビビットカードについて、カード作成者を対象にボランティアの案内が掲示板だけでなく、メールでも知ることができ、ボランティアの案内を周知させるには良いものだと思います。

また、ポイント制度については、あまりボランティアの経験のない人も、やってみようかと考え活動に参加し、そこで繋がりをもつことや新たな視野を持つ機会も作れるので、良い試みだと思います。

●法文学部 3年（女子）

三回生になると就職ガイダンスが始まり、既にビビットカードを作っていた友人から参加する度にポイントが付くことを聞きカードを作りました。すると毎週出ているガイダンスでどんどんポイントが貯まり、献血やまた就活の役に立てばと参加したボランティアでもポイントが付きしました。私は貯まったポイントを券に換えてファイルやペンなどを購入しました。自分のためにと参加したガイダンスや行事に必要な文具が手に入るととても良い制度です。カードを手に入れているのに活用していない人には是非利用してほしいです。

●法文学部 3年（女子）

私はよくサークル活動の際にビビットポイントを貯めています。特に、ボランティアサークルなどが地域貢献活動をすることでポイントが付与されることは、とても活動の励みになり良いことだと思います。

●法文学部 3年（女子）

島大生にとって、ボランティアはまだ馴染みが薄いと思います。ボランティアよりアルバイトを優先しがちです。しかし、ビビットポイントという特典があれば、ボランティアに興味を持つきっかけになると思います。そして、ボランティア自体に魅力を感じるようになるといいなあと思います。

●総合理工学研究科 2年（男子）

ビビットカードには様々なメリットがありますが、その中で最も良いメリットは、振り返りができることであります。貯めてきたポイントを見ることで、それまで行ってきた活動を振り返ることができ、自分に自信をもつことができると思います。

●生物資源科学研究科 1年（男子）

もともと学内や地域のボランティアには興味がありましたが、積極的に情報を探すことまではしていませんでした。ポイント制度が始まってから、イベント等の掲示物や問い合わせ先がまとまり、活動を探しやすく、参加しやすくなりました。

12

文部科学省大学教育改革プログラム合同フォーラムへの参加

2008年2月9日、パシフィコ横浜で開催された「大学教育改革プログラム合同フォーラム」のパネル展示に島根大学のプログラムを出展しました。本学のブースには、約500名の来場者があり、多数の質問がありました。



学生GP支援室



平成20年4月1日にプログラムの円滑な推進を図るため、教育・学生支援部学生支援課に「学生GP支援室」を設置しました。

地域から要請のあるボランティアの紹介窓口として、機能を發揮しています。

今後とも社会貢献の一助となることを念願しています。

STAFF

■ 学生支援プロジェクト改善・評価外部委員会

愛媛大学理事	柳 今	澤 岡	康 日	信 紀
島根県立大学副学長	平 足	井 立	英 卓	嗣 久
立命館大学キャリアセンター部長	松 持	本 田	裕 位	美 剛
島根県ボランティア活動振興センター所長	郡 本	司 間	由 二	秀 隆
法文学部保護者代表	米 山			
教育学部保護者代表				
医学部保護者代表				
総合理工学部保護者代表				
生物資源科学部保護者代表				

■ 学生委員長会議

理 事	副学長	坂 本	一 光	光 雄
法文学部	教 授	伊 藤	光 雄	巖 平
教育学部	教 授	小 川	晃 泰	直 一
医学部	教 授	高 田	浩 浩	一 平
総合理工学部	教 授	服 部	耕 一	
生物資源科学部	教 授	尾 崎		
法務研究科	准教授	松 本		
保健管理センター	所長(兼)教授	蘆 田		

■ 学生支援プロジェクト実行委員会

理 事	副学長	坂 本	一 光	光 夫
法文学部	教 授	大 橋	一 泰	覚 巧
教育学部	准教授	西 村		彦 敏
教育学部	准教授	青 山	幸 英	門 史
医 学 部	教 授	安 井	主 剛	明 巳
総合理工学部	准教授	宮 崎	智 長	行 夫
生物資源科学部	准教授	山 岸	文 耕	平 次
教育開発センター	講 師	山 田	祐 伸	治 子
キャリアセンター	教 授	原 田	隆 宏	紗 也
保健管理センター	教 授	荒 川	宏 二	
教育・学生支援部	部 長	小 西		
学生支援課	課 長	加 藤		
学生支援課	グループリーダー	英 田		
医学部学務課学生支援室	総務係長	稲 岡		
学生代表	(松江キャンパス)	杉 原		
学生代表	(松江キャンパス)	青 木		
学生代表	(出雲キャンパス)	岡 田		
学生代表	(出雲キャンパス)	宮 本		
学生サポートコーディネーター		若 槻		

注：この名簿は、2009年1月1日現在のものです。

● 編集・発行 学生支援プロジェクト実行委員会
 ● 発 行 日 2009年1月
 ● 電 話 0852-32-6054
 ● U R L <http://shiengp.shimane-u.ac.jp/>

